

故 今 泉 博 士 記 念 資 金 募 集 趣 意 書

本邦鐵鋼技術界の長老たる故今泉嘉一郎博士の製鐵鋼業に對する偉大なる功績は洵に顯著なるものに有之今其一端を擧ぐれば博士は明治二十五年東京帝國大學工科大学卒業後本邦近代式製鐵事業發祥の基地たる元官立八幡製鐵所の要職に歴任してその創設に努力し次で明治四十三年日本鋼管株式會社創立者の一人として其重任に膺り同社の技術を總攬指導して孜々事業の發展に盡瘁し特に日本式鹽基性轉爐法の操業を創始して本邦製鋼法に一新紀元を劃したるその卓拔なる識見と偉大なる貢獻は衆目の均しく認むる處に有之其間本邦鐵鋼業の創建に際し屢次設置せられたる官民諸會合の開催に際しては常に其委員として活躍し特に本邦學術技術の振興機關たる社團法人日本鐵鋼協會に對しては其創立者の一人として第二次會長として將亦前會長として常に同會を指導誘掖せらるゝ等前後五十年に亘り本邦鐵鋼業の樹立發展に畢生の努力を傾注し其貢獻と功績とは誠に没する可からざるもの有之昨年六月二十九日不幸長逝せられたるは斯界の爲め實に痛惜措く能はざる次第に御座候茲に生等同志相弔り左記要項に依り記念資金を募集し聊か博士の英靈を慰め併而永く其功績を後世に傳へ度何卒御賛同の上御醸金あらん事を奉希願候

昭和十七年二月

發 起 人 (五十音順○印ハ實行委員)

伊 東 忠 太	石 川 登 喜 治	石 原 米 太 郎	井 上 匡 四 郎
○井 村 竹 市	鶴 瀨 新 五	大 河 内 正 敏	大 谷 米 太 郎
小 倉 正 恒	○景 山 齊	桂 弁 三	門 野 重 九 郎
川 上 義 弘	川 崎 舍 恒 三	○河 村 驥	岸 本 吉 左 衛 門
○吉 川 晴 十	木 村 弘 人	久 保 田 省 三	栗 本 勇 之 助
○黑 田 泰 造	小 島 甚 太 郎	伍 堂 卓 雄	小 日 山 直 登
齋 藤 三 三	○齋 藤 大 吉	作 間 綱 太 郎	寒 川 恒 貞
澁 澤 正 雄	島 安 次 郎	島 岡 亮 太 郎	○白 石 元 治 郎
末 兼 要	杉 政 人	田 宮 嘉 右 衛 門	○依 國 一
中 井 勵 作	中 山 悅 治	二 階 堂 行 健	尾 藤 加 勢 士
本 多 光 太 郎	牧 田 環	松 井 茂	松 方 幸 次 郎
○松 下 長 久	松 本 健 次 郎	○水 谷 叔 彦	名 井 九 介 貞
向 井 哲 吉 郎	村 上 武 次 郎	森 岡 平 右 衛 門	吉 岡 保 貞
○渡 邊 三 郎			

今 泉 博 士 記 念 資 金 募 集 要 項

- 一、記念資金の募集及應募資金の取扱事務は凡て社團法人日本鐵鋼協會に一任する事
- 一、應募資金總額は日本鐵鋼協會に於て確實且永久に保存の方法を講じ夫れより生ずる利子を以て左記事業を行ふ事
 - 「鐵鋼の科學及技術に關する有益なる試験研究者又は著述者に對する援助資金に充當する事」
- 一、醸出金申込締切期限は本年五月末日迄とし六月二十九日一週忌に際し今泉博士記念資金取扱規則を制定し之を發表する事
- 一、醸出金額は各自御隨意の事 (振替貯金番號東京一三九二五〇番 日本鐵鋼協會)

故 今 泉 博 士 記 念 資 金 募 集 委 員 會